

銅・アルミ

市況見通し

4月



橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート

銅

2月の伸銅品生産は前年同月比で3.1%減の6万5639ト、全体では3カ月連続の減少だった。内需は5万5116トで同2%減、輸出は1万523トで同8.9%減だった。品種別では銅銅輸入は、電気銅が

2月の銅電線出荷は同1.8%増の5万600トで、うち国内が同1.4%増、輸出が同15.1%増だった。銅輸出は、電気銅が同12.2%増の4万4263ト、銅スクラップが同17.9%増の1万5900ト。

LME銅セツルメント	6400~6600 ^{ドル}	変わらず
電気銅建値	75~78万円	強い
為替(1 ^{ドル})	110~112円 (1カ月間T T M)	強い

2月の伸銅品生産は前年同月比で3.1%減の6万5639ト、全体では3カ月連続の減少だった。内需は5万5116トで同2%減、輸出は1万523トで同8.9%減だった。品種別では銅銅輸入は、電気銅が

LMEアルミ	1800~2000 ^{ドル}	強い
現物後場買い	マイナス5円~0円 (前月最終価格より)	弱い
スクラップ	110~112円 (1カ月間T T M)	変わらず
為替(1 ^{ドル})		

2月のアルミ圧延品生産量(板類・押出類)は前年同月比で3.4%減の15万7092トで、14カ月連続の減少だった。生産量は板類が同6.0%減の9万3352ト、押出類が同0.7%増の6万3740ト。

2月のアルミニウム2次合金・同合金地金生産は同2.6%減の6万5697ト。出荷は同3.1%減の6万6305トだった。

「高断熱窓」急速に普及

アルミ・樹脂複合窓が6割超 樹脂製がアルミ製逆転

アルミ・樹脂複合窓が、長がまとめた住宅用建材に関する報告書に速に普及している。日本サッシ協会(理事長・山下清胤三協立山社)によると、2018年の戸建て住宅のアルミ・樹脂複合窓の構成比率は60.2%となった。1977年の統計開始以来初めて5割を超えた17年の54.2%からさらに6割上昇して、6割超に達した。樹脂窓は20.4%でアルミ窓の19.3%を上回った。2021年春に稼働を始める予定。

樹脂・アルミ製窓の樹脂製の断熱性は、開口部からの熱の出入りを抑え空調を効率化できるため、住宅の省エネ化に貢献。さらに結露の抑制にも役立つ商品として、大手サッシメーカーでは注力製品に位置付ける企業が多い。調査は全国約3800戸の戸建て住宅を対象に実施したもの。アルミ・樹脂複合窓の比率は関東が65.9%、近畿が62.7%、中部が61.6%だった。マンションなど共同住宅では約1100棟を対象に調査。18年のアルミ・樹脂複合窓の比率は5.3%だった。2年連続で史上最高値を更新した。韓国が前年比1%減の101億7千万ドルにとどまったため、59%増の131億1千万ドルまで拡大した中国が2位に浮上した。4位の日本は46%増の94億7千万ドルに急増したほか、5位の北米も4%増の58億3千万ドルだった。6位の欧州は15%増の42億2千万ドル。その他は26%増の40億4千万ドルだった。

世界の半導体製造装置販売 18年は14%増、最高更新

日本半導体製造装置万ドルに達したと発表し、協会はこのほど、2018年の世界半導体製造装置販売高が前年比14%増の645億3千万ドルに達したと発表した。2年連続で史上最高値を更新した。韓国が前年比1%減の177億1千万ドルに

オーストリア設備大手の「アンドリツ」 テンションレベラーなど受注 印アルミ圧延のヒンダルコ向け

オーストリアの設備大手、アンドリツはこのほど、インドでアルミ圧延を手掛けるヒンダルコ・インダストリーズにテンションレベリングラインと脱脂ラインを受注したと発表。テンションレベリングラインは年15万トの能力を持つ

LME 週間推移

現物・3カ月先物とも前場終値=公式価格
単位: トン当たりドル、日付はロンドン現地時間
【2019年4月1~5日】

現物	3カ月先物		確定出来高	
	【買値】	【売値】		
銅	1日	6,497.00	6,498.00	179,207
	2日	6,430.00	6,431.00	160,093
	3日	6,481.00	6,483.00	139,966
	4日	6,443.00	6,444.00	155,229
	5日	6,418.00	6,419.00	119,396
錫	1日	21,575.00	21,600.00	4,355
	2日	21,280.00	21,325.00	10,277
	3日	21,425.00	21,475.00	6,086
	4日	21,300.00	21,325.00	4,197
	5日	21,275.00	21,280.00	7,170
鉛	1日	2,020.00	2,022.00	44,178
	2日	1,973.00	1,974.00	75,487
	3日	1,983.00	1,985.00	44,401
	4日	1,987.50	1,988.00	35,676
	5日	1,971.00	1,973.00	53,647
亜鉛	1日	3,016.00	3,018.00	141,410
	2日	2,937.00	2,938.00	75,487
	3日	2,974.00	2,975.00	145,407
	4日	2,991.00	2,993.00	161,391
	5日	2,968.00	2,969.00	204,505
ニッケル	1日	13,150.00	13,155.00	84,942
	2日	13,015.00	13,020.00	136,568
	3日	13,180.00	13,200.00	102,399
	4日	13,040.00	13,045.00	86,298
	5日	13,080.00	13,090.00	104,201
アルミ	1日	1,887.50	1,888.00	279,008
	2日	1,857.50	1,858.00	281,040
	3日	1,864.00	1,865.00	249,195
	4日	1,871.00	1,872.00	243,300
	5日	1,863.00	1,864.00	344,433
アルミ二次金	1日	1,425.00	1,435.00	40
	2日	1,425.00	1,435.00	388
	3日	1,425.00	1,435.00	42
	4日	1,365.00	1,375.00	32
	5日	1,375.00	1,385.00	4
北米アルミ二次金	1日	1,415.00	1,420.00	782
	2日	1,415.00	1,420.00	763
	3日	1,370.00	1,380.00	766
	4日	1,325.00	1,335.00	578
	5日	1,330.00	1,340.00	462

* 出来高はロット、1ロットは錫5ト、ニッケル6ト、アルミ二次合金・NSAA C C 20ト、その他25ト

COMEX 銅建値推移

(単位: ポンド当たりドル、日付はニューヨーク現地時間)
(出来高は枚、1枚は100トロイオンス)
【2019年4月1~5日】

	4月限	5月限	6月限	7月限	8月限	確定出来高
1日	2,9205	2,9245	2,9285	2,9315	2,9360	109,120
2日	2,9040	2,9055	2,9105	2,9135	2,9185	78,830
3日	2,9465	2,9485	2,9525	2,9545	2,9590	84,636
4日	2,9085	2,9100	2,9150	2,9165	2,9215	95,335
5日	2,8925	2,8945	2,9000	2,9020	2,9070	94,911

海外非鉄週況

(4月1~5日)

銅 直物は週間ベースで66.00^{ドル}安、3カ月物は49.75^{ドル}安で、ともに下落。4月第1週のロンドン金属相場は、ニッケルを除いて軟調だった。値動きは小幅。米中貿易協議の行方を見極めたいとの気分が全体的に強かった。4月第2週は、英国の欧州連合(EU)離脱をめぐる動きや米中貿易協議の動向が引き続き注目を集めそう。

鉛 直物は36.00^{ドル}安、3カ月物は27.25^{ドル}安で、ともに下落。4月第2週は、英国の欧州連合(EU)離脱をめぐる動きや米中貿易協議の動向が引き続き注目を集めそう。

亜鉛 直物は31.00^{ドル}安、3カ月物は28.50^{ドル}安で、ともに下落。4月第2週は、英国の欧州連合(EU)離脱をめぐる動きや米中貿易協議の動向が引き続き注目を集めそう。

ニッケル 直物は72.50^{ドル}高、3カ月物は70.00^{ドル}高で、ともに上昇。4月第2週は、英国の欧州連合(EU)離脱をめぐる動きや米中貿易協議の動向が引き続き注目を集めそう。

アルミ 直物は36.00^{ドル}安、3カ月物は27.25^{ドル}安で、ともに下落。4月第2週は、英国の欧州連合(EU)離脱をめぐる動きや米中貿易協議の動向が引き続き注目を集めそう。



中国：洛陽市政府、遼寧忠旺集団社とアルミニウム合金精密高度加工共同事業を展開

安泰科によれば、洛陽市政府は、遼寧忠旺集団社と100万トンのアルミニウム合金精密高度加工における共同事業を展開し、調印式が鄭州市で開かれた。当該事業への投資総額は210億元である。

契約に基づき、洛陽市政府は、遼寧忠旺集団社とアルミニウム加工、新材料ビックデータ分野で全面的に協力を開始する。遼寧忠旺集団社は、伊川県で年間生産100万トンのアルミニウム合金精密高度加工プロジェクトを建設する予定。主に乗用車車体及び部品、専用車体及び部品、アルミニウム合金の建築用ひな形、環境に優しいアルミニウム製家具など製品が含まれている。当該プロジェクトは建設後、年間売上額は400億元以上になると予想。

遼寧忠旺集団は、世界第2位、アジア最大の工業アルミニウム型材の研究開発製造企業である。当該企業は主に環境に優しい建築、交通運送、機械設備及び電力工事などの分野に対し軽量型製品を提供している。

(2019年3月6日 北京 関淳夫)

フィリピン：EV向け電池産業の育成に向け、ニッケル産業界他3団体が連携

2019年2月1日付地元メディアによると、フィリピンのニッケル産業界協会(PNIA:Philippines Nickel Industry Association)、電気自動車協会(EVAP:Electric Vehicle Association of the Philippines)及び欧州商工会議所(ECCP:European Chamber of Commerce of the Philippines)の3団体は1月30日、EV(電気自動車)業界とニッケル産業界の連携を目的とした覚書を締結した。

今後の会合において、EV向けリチウムイオン電池の産業化に向けた課題を抽出する等を行い、関連支援策の実現等を政府に働きかけていく。電池の正極材として用いられるニッケルの世界有数の生産国であるにもかかわらず、リチウムイオン電池生産が産業として育っていない現状を憂慮しての動きとみられる。より安価でのEV生産を可能とするため、鉱石から電池正極材生産までのサプライチェーンを構築することが狙いである。

なお3月18~19日には、フィリピンのニッケル産業界強化に向けたイベント「The Nickel Initiative」を開催し、生産者とニッケル需要家(EV、運輸、インフラ等の業界)との連携を強化する。

(2019年3月6日 ジャカルタ 南博志)

インドネシア：PT Huadi Nickel Alloy Indonesiaのフェロニッケル製錬所が正式に稼働

2019年1月28日付地元メディアによると、中国・Huadi Steel Group(華迪鋼業集団)社傘下のPT Huadi Nickel Alloy Indonesiaのフェロニッケル製錬所が1月26日に正式に稼働した。同製錬所は、南Sulawesi州Bantaen工業団地に位置し、敷地面積は1,000畝である。当初の年間生産能力は、フェロニッケル5~6万トン、将来は20万トンまで引き上げる予定である。2019年半ばには、電気炉の4基増設に伴う建設工事を開始する予定で、地元からさらに2,000人を雇用することとしている。

(2019年3月6日 ジャカルタ 南博志)

DRコンゴ：中国・盛屯鉱業社は、DRコンゴの銅・コバルト鉱山買収に約5億元を投入

安泰科によれば、中国・盛屯鉱業社は、間接的に持株子会社旭農国際社に出資することにより、Nzuri Copper社の100%の株式権益を現金で買収する予定。取引総額は1.14億豪ドル(人民元5.46億元に相当)である。

Nzuri Copper社はDRコンゴ・カタンガ地域で銅・コバルト鉱山を保有している。主にKalongwe採掘プロジェクト及びFTB(FOLD&THRUST BELT JV)探査プロジェクトを実施している。Kalongwe採掘プロジェクトでは、鉱石量1,346万トン、平均品位:Cu2.7%、Co0.62%、銅含有量30.2万トン、コバルト含有量4.27万トンが確定している。

(2019年3月6日 北京 関淳夫)

DRコンゴ：Kalongwe銅・コバルトプロジェクトを所有する豪Nzuri Copper社、中国Chengtun Mining社による買収に合意

2019年2月27日付地元メディアによると、DRコンゴのカッパーベルトで探鉱開発を行う豪ジュニアNzuri Copper社は、中国Chengtun Mining社からの買収オファーに合意した。

買収時の株価にプレミアムを付ける買取り条件であった模様。同社が85%権益を持つKalongwe銅・コバルト鉱床は、2018年4月にF/Sを策定しており、銅量約30万トン程度と小規模ではあるものの、平均0.5%以上の高品位コバルト鉱石を産し、コバルト量で4万トン近くの資源量がある。酸化鉱を主体として、露天採掘で8年間操業し、銅及びコバルト精鉱を生産する計画である。

一方のChengtun社は、近傍のKolwezi鉱山にて、150m万ドルを投じて、SxEwプラントを完成させており、Nzuri社とは従前よりKalongwe鉱床開発時の鉱石引取りや建設費用の拠出などを協議してきた経緯があった。

緯があった。

(2019年3月5日 ヨハネスブルグ 原田武)

ボツワナ：Khoemacau銅・銀プロジェクト、565m²の建設費用を確保

2019年2月26日付地元メディアによると、プラベート・エクィティ・ファンドCupric Canyon社がKhoemacau銅・銀鉱山プロジェクトの建設費用565m²を確保した旨を発表した。2021年前半から銅精鉱の生産(年間6.2万トン銅、1.9百万\$銀)が期待されており、当初は2017年から建設を開始する予定であったが、環境許認可や電力供給の問題から遅れていた。近年、ボツワナ国内の銅生産が見られないことから、ダイヤモンド以外の同国の鉱産資源としての期待も大きい。

(2019年3月5日 ヨハネスブルグ 原田武)

南ア：鉱業協会、金・白金鉱山業界のストライキに懸念を表明

2019年2月22日付地元メディアによると、南アの金・白金鉱山業界15社へのAMCU(鉱山・建設労働組合連合)からのストライキ通知を受け、南ア鉱業協会は懸念を表明した。AMCUは11月末からSibanye-Stillwater社にてストライキを続けており、同じ業界に拡大させる計画。

南ア鉱業協会によると、現在、南アの金・白金鉱山業界は、価格の減少やコストの増加、操業現場の深部化といった困難に直面し、2018年においては71%の金鉱山の利益が出ず、50%以上の白金生産が維持できない状況。これ以上のストライキは、産業界の継続性を損なうことになる。また、産業界のみならず、雇用者、経済や国そのものにとっても不利益になる。金鉱山業界では2007年来、雇用は40%減、2017年と比較しても10%減となっている。この危機に瀕している産業界においてストライキを支持するAMCU(鉱山・建設労働組合連合)を理解し難い、と語った。

(2019年3月5日 ヨハネスブルグ 原田武)

ロシア：Rosgeologia社、Chuktukon鉱床のレアアース埋蔵量を更新

2019年2月20日付の地元報道等によると、Sibirskoe PGO社(Rosgeologia社傘下)がChuktukon鉱床(クラスノヤルスク地方ボグチャヌイ地区)のニオブ及びレアアースのカテゴリC1及びC2埋蔵量、カテゴリP1資源量を算定し、連邦地下資源利用庁(Rosnedra)の国家鉱量委員会(GKZ)により、埋蔵量評価報告書が承認された。調査は2014年から2018年上期にかけて実施され、埋蔵量は大幅に増加した。GKZにより承認されたC1+C2埋蔵量はレアアース酸化物280万トン(政府目標は50万トン、平均品位は4.585%で、予

定値の5.5倍)、酸化ニオブ44万3,000トン(同20万トン、平均品位0.74%)、三酸化スカンジウム3,390トンである。(2019年3月5日 モスクワ 秋月悠也)

ロシア：RCC社、Malmyzhskoe金・銅斑岩鉱床開発プロジェクト向け電力供給で合意

2019年2月14日付の地元報道等によると、Russian Copper Company(RCC社)と連邦送電公社(FGC UES)は、ロシア投資フォーラム(2019年2月14~15日、ソチ市)において、Malmyzhskoe金・銅斑岩鉱床(ハバロフスク地方ナナイ地区)のロシア統一送電網への技術的接続に関する協力協定に調印した。協定では、RCC社の既存施設への電力安定供給に向けた協力や、同社の事業所所在地域の送電施設整備面での協力が予定されている。鉱床に建設予定の施設には250MWの電力が必要と見られる。

Malmyzhskoe金・銅斑岩鉱床の埋蔵量は銅515万6,000トン(平均品位0.41%)、金278トン(平均品位0.22g/トン)とされる。RCC社は、同鉱床での採鉱選鉱コンビナート(年間鉱石処理能力3,500万トン)建設を予定しており、投資額は約1,150億RUBとなる。現在、鉱床の地質調査が継続中であり、採鉱選鉱コンビナートの建設開始は2021年を予定している。

(2019年3月5日 モスクワ 秋月悠也)

ロシア：RCC社、バシコルトスタン共和国Salavatsky鉱区開発へ

2019年2月12日付の地元報道等によると、Alexandrinskaya Mining Company(略称AGK、Russian Copper Company(RCC社)傘下、チェリャビンスク州ナガイバクスキー地区)は、沿ヴォルガ連邦管区地下資源利用局が2019年初めに実施した競売により、バシコルトスタン共和国Salavatsky鉱区における地質調査・探査・銅鉱石採掘を目的とする地下資源利用権を取得した。

Salavatsky鉱区はアプゼリロフスキー地区にあり、面積2.09平方キロ、予測資源量は銅鉱石2億870万トン、銅99万2,600トン(平均品位:0.48%)である。ライセンス条件に従い、AGK社は9カ月以内にSalavatsky鉱区で地質調査を開始する。地下資源利用ライセンスの有効期間は25年間である。

現在、AGK社の鉱物資源事業の中心は、坑内掘開中のChebachie硫化銅鉱床(年間生産能力80万トン)であり、鉱石は選鉱プラント(年間鉱石処理能力80万トン)で処理している。

AGK社は、鉱物資源事業強化のため、既にKatabuskysky銅亜鉛硫化鉱区(チェリャビンスク州ヴェルフネウラリスク及びナガイバクスキー地区)で地質調査を行っており、2019年に完了予定である。

(2019年3月5日 モスクワ 秋月悠也)